Syllabus

専攻科2年　令和2年度（2020）

Syllabus の活用にあたって

Syllabus「シラバス」は，授業項目，講義案を意味します。

このSyllabusには，皆さんが，今年度に学習する授業の科目名・単位数はじめ，ねらいや内容，教育形態，評価（情報源・規準）等が書かれています。

カリキュラムは，学習の積み上げを意識して，基礎分野，専門基礎分野，専門分野Ⅰ，専門分野Ⅱ，統合分野から構成されています。そして，社会の変化とともに看護師に求められている能力を養うために，各分野の教育内容を強化しました。

Syllabusに単位数が示されていますが，単位とは一定の質の勉学の量を，示す基準となるものです。

単位の計算方法は，高等学校の場合と異なり，専攻科においては大学設置基準第 21 条第２項の規定*の例によると定められています。（保健師助産師看護師等学校養成所指定規則）つまり，１単位の履修時間は，教室（学校）の内外合わせて４５時間です。科目の単位は次の基準*によって定められています。

単位数を定めるに当たつては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一　講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。

二　実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。

１単位と計算される勉学の時間量には，教室（学校）内における勉学だけでなく，自主学習を含めて計算されることになっています。つまり，受け身ではなく，求められる教育内容を**自ら学んで**いかなければなりません。それによって**生涯にわたって学び続ける力**をつけてほしい。

生涯学び続けることは，専門職には欠かせない要件です。

【１単位の基準表】

区　分	授業時間	自己学習時間	計
講　義	１５	３０	４５
	３０	１５	４５
演　習	３０	１５	４５
実験・実習	４５	－	４５

（専攻科の授業時数は，１時限９０分を２時間とみなしている。）

CONTENTS

基礎分野 ---------- １頁

専門基礎分野 ---------- ６頁

専門分野Ⅱ ---------- ９頁

統合分野 ---------- 19 頁

（臨地実習については「臨地実習便覧」も参照）

平成３１年度入学生　教育課程表

徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校専攻科

教育内容		規定規則単位数	授業科目	単位	時間	１年		２年		単位数合計
						単位	時間	単位	時間	
基礎分野	科学的思考の基礎	10	基礎科学	2	30	2	30			2
			統計学	2	30	2	30			2
	人間と人間生活の理解		英語	6	90	4	60	2	30	6
			生涯スポーツ	1	30	1	30			1
			教育学	2	30			2	30	2
			心理学	2	30			2	30	2
			情報科学	1	30			1	30	1
			言語表現	2	30			2	30	2
	小計	10		18	300	9	150	9	150	18
専門基礎分野	人体の構造と機能	8	解剖生理学	2	60	2	60			2
			生化学	1	30	1	30			1
			薬理学	1	30	1	30			1
	疾病の成り立ちと回復の促進［８］		病理学	1	30	1	30			1
			微生物学	1	30	1	30			1
			疾病・治療概論	1	25	1	25			1
			疾病・治療各論	1	30	1	30			1
			健康支援論	1	30	1	30			1
	健康支援と社会保障制度［５］	5	ヘルスプロモーション論	1	15			1	15	1
			環境論（公衆衛生）	1	15			1	15	1
			社会保障制度	3	45			3	45	3
	小計	13		14	340	9	265	5	75	14
専門分野Ⅰ	基礎看護学	3	看護学概論	1	30	1	30			1
			看護過程	1	30	1	30			1
			基礎看護学演習	1	30	1	30			1
	小計	3		3	90	3	90			3
専門分野Ⅱ	成人看護学	4	成人健康生活支援概論	1	30	1	30			1
			成人健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			急性期クリティカル看護論	1	30	1	30			1
			慢性疾患療養生活支援論	1	30	1	30			1
	老年看護学	3	老年健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	小児看護学	3	小児健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅲ	1	30	1	30			1
	母性看護学	3	女性のライフコース支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	精神看護学	4	精神健康生活支援論Ⅰ	1	15	1	15			1
			精神健康生活支援論Ⅱ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅳ	1	15			1	15	1
	臨地実習	12	成人看護学実習	4	180	6	270	4	180	4
			老年看護学実習	2	90					2
			小児看護学実習	2	90					2
			母性看護学実習	2	90					2
			精神看護学実習	2	90			2	90	2
	小計	29		29	1020	18	615	11	405	29
統合分野	在宅看護論	4	在宅看護論総論	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅲ	1	15			1	15	1
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践Ⅰ	1	15			1	15	1
			看護の統合と実践Ⅱ	1	15			1	15	1
			看護研究	1	30			1	30	1
			統合ゼミ	1	30			1	30	1
		4	在宅看護論実習	2	90			2	90	2
			看護統合実践実習	2	90			2	90	2
	小計	12		12	375			12	375	12
合計		67		76	2125	39	1120	37	1005	76

基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	英語	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標
看護の臨床場面で使われる英語について，読解と英会話を取り上げ，その活用能力を高める。ナースが患者と接するときに必要な英会話ができる能力を養う。医療に関する英文を読むことができる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit8　Do you work on the surgical ward?	手術	患者に安心感を与えられるようなコミと基本的知識の構築を目標に、積極的な取り組みと知識の定着度が感じられるようにする。
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit9　How are you feeling?	術後 日常看護	
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit10　Are you worried about anything?	心のケア 文化や宗教の違い	
English for Healthcare Professionals Because We Care	様々なケースの英文を読み、その内容を正しく理解することができる。	

使用教科書・教材・実技実習材料など
クリスティーンのレベルアップ看護英会話　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 提出物（ノート・レポート） 小テスト（単語テスト） ペーパーテスト	授業・個人 授業・グループ（プレゼンテーション） 校内実習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業で扱った事項をコミュニケションで積極的に使っている。 単語・熟語を身につけ会話等に生かしている。	患者の背景を理解できる国際的思考、感覚を身につけ、グローバルな視点から判断できる。	既知の情報をもとにスムーズに会話を進める技能を身につけている。	ナースが患者と接するときに必要な英会話（医療用語・表現）ができるための知識を身につけ，医療に関する英文を読むことができる。

基礎分野	科目名	単位(2)	履修学年					科目の種類
	教育学	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2	全員必修科目

科　目　の　目　標

教育に関する基礎的な知識、教育を構成する諸要素、教育の実践に必要な知識、現代教育に求められている新たな課題等について学ぶことにより、人間形成のあり方について認識を深める。

また、このことにより、医療・看護職従事者として必要な「人間の成長に関する理解力」を高め学び続けることの重要性を深く認識することにより、質の高い専門職者として活動できる素地を養う。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点
① 社会における看護と教育	人間の成長を支える仕組みを学ぶ	看護と教育の共通点
② 教育の概念と子ども観	子ども観の形成と教育の意義の理解	子どもの権利の認識
③ 社会変動と教育の組織化	社会の変容に伴う公教育化の過程	学校形成の必要性
④ 教育の構成要素	育つ力と育てる立場のかかわり	教育の主体の理解
⑤ 教育の受け手の見まもり	養護の機能と過程	学校養護の必要性
⑥ 「発達」の概念	教育による発達の理解	病児の発達を含めて
⑦ 教育の営みの考察1	子どもが学び育つ場としての家庭・学校	学校と家庭の役割
⑧ 教育の営みの考察2	学校に通うという意味の変化の理解	不登校をどうとらえるか
⑨ 教育の目標と評価	評価の種類と目的	評価の開発と発展
⑩ 教育の専門性	専門性と専門職の理解	養護教諭の専門性を通じて
⑪ 教育の組織化	教育行政と学校運営	義務教育の場と教育参加
⑫ 現代教育の新たな課題1	キャリア教育・ジェンダー	キャリア教育の限界
⑬ 現代教育の新たな課題2	特別ニーズ教育とインクルーシブ教育	障害の種類と教育の態様
⑭ 現代教育の新たな課題3	シティズンシップ教育	政治的リテラシーの教育
⑮ 現代教育の新たな課題4	生涯学習	看護師の生涯学習

使用教科書・教材・実技実習材料など

教科書「系統看護学講座 基礎分野　教育学」　　教員作成教材

評価の情報源	教育形態
出席状況 授業への取り組み（意欲・関心・態度） 提出物・定期テスト	授業・演習 プロジェクターによって進行する。効果的なノートづくりの努力を要する。

評　価　基　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人間の成長において教育のはたす役割について、積極的に学ぼうとする意欲や態度がみえること。	教育の成立や発達の過程と現代教育の諸相や課題を深く考え、その結果を適切に表現できること。	様々な媒体によってもたらされる情報を的確に把握・記録して実務に生かす技能を身につけていること。	人間形成と教育の関係における様々な論考が、社会人として、また看護職として必要な知識と理解のレベルに達していること。

基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	心理学	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標

人間の心や行動を理解するための心理学を学び，自己理解に役立てると共に患者の心理の理解や患者とその家族，職場の同僚などの人間関係を理解し，相手を思いやるコミュニケーションの取り方や信頼関係について考えを深める。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1）様々な心理学の立場を知り，その基礎知識を学ぶ。 ①知覚の心理 ②記憶の心理 ③思考・想像・言語の心理 ④知能の心理 ⑤学習の心理 ⑥感情・情緒・情操の心理	知覚，記憶，思考・想像・言語，知能，学習，感情・情緒・情操の心理について基礎知識を学び，自己及び他者を理解する。	心理学の基礎知識を身につけ，自己や自分の周りにいる人々に対して理解を深める視点を養えるよう配慮する。
2）様々な心理学の立場を知り，その基礎知識を学ぶ。 ①適応の心理 ②性格の心理 ③集団の心理 ④発達の心理	適応，性格，集団，発達の心理について学び，人間の行動を理解するための基礎知識を学ぶ。	人間の行動を引き起こすものを理解しようとする心理学の基礎知識を身につけ，自己と他者とのかかわりについて視野を広げられるよう配慮する。
3）コミュニケーションの基本的な知識を学ぶ。 ①コミュニケーションの特徴 ②カウンセリング	コミュニケーションの基本を理解し，また，不適応行動を適応行動にかえていくための基礎知識と技術について理解する。	コミュニケーションやカウンセリングの基礎知識と技術について理解し，患者への話し方，話の聴き方，接するときの表情・態度に思いをはせられるよう，演習を取り入れながら自己のコミュニケーションの取り方を振り返る機会とする。

使用教科書・教材・実技実習材料など

系統看護学講座　心理学　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト　ペーパーテスト	授業・演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護を行うために必要な人間の心や行動を知るための心理について関心を持ち，コミュニケーションの基礎知識と技術を理解しようと意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	看護を行うために必要な人間の心や行動を知るための心理について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して自己を振り返り，他者を理解する能力を身に付けその成果を的確に表現する。	看護を行うために必要な人間の心と行動に関する心理学に関する基礎・基本的な知識・技術を基盤として，人間関係やコミュニケーションについて理解を深める技能を身につけている。	看護を行うために必要な人間の心と行動に関する心理学に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に付け，人間関係やコミュニケーションついて理解している。

基礎分野	科目名	単位(h)	履　修　学　年					科目の種類
	情報科学	1（30）	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科　目　の　目　標

看護情報のとらえ方，看護情報とシステムについて理解できる。
コンピュータを用いて，統計的なデータ処理やプレゼンテーションができる。

学　習　内　容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
（1）看護と情報科学 情報科学の基礎、 情報とシステム 看護学と情報や情報処理 セキュリティ、ネチケット 看護と情報に関する倫理	看護情報のとらえ方，看護情報とシステムについて理解できる。	最新の正確な情報を得るために必要な知識や技術について扱う。 情報のセキュリティやネチケット、看護と情報に関する倫理について押さえる。
（2）文書作成・表計算の演習 看護研究抄録作成、経過表作成 統計（検定を含む）	コンピュータソフトを用いて，文書作成、統計的なデータ処理ができる。	今後の看護研究に役立つような実践的な内容とする。
（3）看護研究発表用プレゼンテーション演習	効果的な看護研究発表ができるようプレゼンテーション資材が作成できる。	資材が作成過程での情報リテラシーについても取り扱う。

使用教科書・教材・実技実習など

コンピュータ、ソフト（Word, Excel, PwerPoint）
自作プリント

評　価　の　情　報　源	教　育　形　態
出席状況 授業への取り組み その他（プレゼンテーション作品）	講義 校内演習(コンピュータ) プレゼンテーション グループワーク

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
情報科学について，専門職業人としてｺﾝﾋﾟｭｰﾀに実践的に取り組もうとする関心・意欲・態度がある。	適切な看護実践につなげるための情報科学の重要性を理解し，科学的思考や判断ができ表現できる。	コンピュータを用いて，統計的なデータ処理やプレゼンテーションができる技能を身につけている。	専門職業人としての情報リテラシーの重要性を理解することができる。

基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	言語表現	2(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標
・国語を適切に表現し，的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高める。 ・思考力を伸ばし，心情に豊かにし，言語感覚を磨くとともに，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
・自分の考えをもって論理的に意見を述べたり，相手の考えを尊重して話し合う。	「話す・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の基盤となる事柄を理解するとともに，表現全般に通じる基礎的な方法を習得する。	・「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」「書くこと」の指導は，相互の関連を図りながら効果的に行うようにする。
・情報を収集，整理し正確かつ簡潔に伝える文章にまとめる。 ・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりする。	記録・報告、通信・案内・伝達、意見・主張などにわけ，ジャンル・形式別の表現技法を身につける。	情報を活用して表現する力や論理的思考力をのばすように配慮する。
・様々な表現についてその効果を吟味し，自分の表現や推敲に役立てる。 ・国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深める。	現代語についての理解を深める。	現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割について考えさせるようにする。

使用教科書・教材・実技実習材料など
授業者が準備する

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（作品，演習プリント） 小テスト　考査	授業・演習

評価規準			
関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	読む能力・書く能力	知識・理解
・目的や場に応じて言葉遣いや文体など，表現を工夫しようとしている。 ・様々な表現についてその効果を吟味し，自分の表現や推敲に役立てようとしている。	・自分の考えを持って論理的に意見を述べている。 ・自分の考えを尊重して話し合っている。 ・目的や場に応じて言葉遣いなど表現し，工夫して話している。	・書くために必要な情報を収集・整理し，的確に理解している。 ・収集整理した情報を正確かつ簡潔に伝える文章にまとめている。 ・目的や場に応じて言葉遣いや文体などを工夫して書いている。	・国語の表現の特色について理解している。 ・語句や語彙の成り立ちについて理解している。 ・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解している。

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	ヘルスプロモーション論	1(15)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
保健・医療を統合的に把握し，医療の概念の変遷と仕組みについて理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
【医療総論】 1 成熟する社会と人々の意識変革 1）医療不信から「賢い患者」へ 2）ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｺﾝｾﾝﾄと医療情報の開示 2 医療を見つめなおす新しい視点 1）医療の管理と医療の評価 3 健康概念の質的変化と保健・医療の新しい潮流 1）医療変革の波とともに始まる21世紀 2）これからの先端医療技術開発 3）地球時代のｹｱと情報技術(IT)のﾈｯﾄﾜｰｸ	看護職として日々変わり行く医療の流れを捉え，対応できる視点を持つことを学ぶ。	看護職として日々，変化していく医療に対し，社会に貢献できる視点，必要な知識について学ばせる。
【放射線医学】 1 放射線療法に伴う援助技術 2 核医学 3 Ｘ線診断 4 血管造影 5 ＭＲＩ 6 超音波診断 7 放射線治療 8 放射線防護と健康管理	看護職として基本的な放射線医学の方法，技術，援助について学ぶ。	看護職として必要な放射線医学の方法，技術，援助について学ばせる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
系統看護学講座　健康支援と社会保障制度（1）　総合医療論 医師講師による自作プリント（医療総論） 系統看護学講座　別巻7　　臨床放射線医学

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み　テスト	授業

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護を行うために必要な医療の流れについて関心を持ち，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	人間の健康と疾病について思考を深め，看護をするうえに必要な医療の質を判断する能力を身に付け，その成果を的確に表現する。	看護を行うために必要な医療の流れに関する基礎的・基本的な知識を基盤として，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深め，援助する技能を身につけている。	看護を行うために必要な医療の流れに関する知識を身に付け，医療を人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解できている。

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	環境論（公衆衛生）	1（15）	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
健康の保持・増進，疾病構造の変化や環境問題などの動向について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
公衆衛生の考え方 ①健康と公衆衛生 ②公衆衛生のあゆみ ③公衆衛生の学術基盤 ④公衆衛生の地域活動	公衆衛生の定義をおさえ，その意義を学ぶ。	人間を取り巻く環境の影響を受ける存在としての個人，家族，地域社会，職能社会の公衆衛生をどう発展させるか理解させる。
疫学・保健統計・人口動態 ①疾病の疫学と予防 ②健康指標 ③人口の動向と公衆衛生	公衆衛生活動に必要な情報の収集，活用の方法について学ぶ。	健康に関する疫学と統計情報を理解し，そこから問題となることを判断し問題解決できる方法を指導する。
食生活と健康 ①健康作りと食 ②健康の維持と食品保健	食が人に与える影響や疾病予防のための食生活の重要性について学ぶ。	地域集団における健康の保持・増進のための方法を理解させる。
産業保健 ①健康問題と環境 ②環境問題の動向と公衆衛生 ③職場における健康管理	産業保健の目的や特徴を理解し，健康に影響をあたえる有害因子について学ぶ。	産業保健における看護師の役割について理解させる。
公衆衛生の国際協力 ①国際保健医療協力の状況・考え方	諸外国との比較を通して，我が国の公衆衛生の特徴と今後の課題について学ぶ。	我が国の公衆衛生活動の特徴と看護職に期待される役割について理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
シンプル衛生公衆衛生学 2020　　南江堂

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト　ペーパーテスト	授業・演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地域集団における健康の保持・増進のための活動を理解した上で，自ら進んで場に応じた健康活動に取り組む意欲的・実践的な態度を身につける。	健康に関する疫学と統計情報を理解し，そこから問題となることを判断し，問題解決の方法を考えることができる。また，解決のための方法を様々な表現手段を用いて的確に表現することができる。	地域社会，職場，学校等の環境において問題になっていることを見いだす方法を理解し，解決するための技能を身につけている。	集団または個人の健康の保持・増進についての知識や保持・増進を目指した社会的施策についての知識を持っている。その意義や活用方法について理解している。

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	社会保障制度 関係法規 社会福祉	1(15) 2(30)	1年	2年	3年	専1年	専2年○	全員必修科目

科目の目標
法規の概念を学び，医療・看護に関係する主な法規について理解をはかる。 法規の概念，看護領域に関係の深い法規について学び，関心をもつことができる。 社会保障の理念と基本的な制度の考え方について学ぶ 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の制度と課題について学ぶ。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
【関係法規】 法規の概念 看護活動に関する法律，医療過誤	法について一般的，基本的事項について学ぶ 保健師助産師看護師法について学ぶ。	法についての基礎的知識を理解させる。 看護職が臨床現場で必要とされる法について理解させる。
医療・薬事に関する法律	医療・薬事に関する法律の基本的事項について学ぶ。	医療現場において必要な法律について理解させる。
保健衛生に関する法律	保健衛生法に関する法律の基本的事項について学ぶ。	国民の健康の保持・増進を目的とする法律について理解させる。
労働基準法など看護活動と関連の深い法規の目的と概要	労働関係法令の基本的事項について学ぶ。	労働者として大切な法律の基礎的知識を身につける事を指導する。
【社会保障制度】	社会保障の概要を理解し，具体的な保障内容について学ぶ。	社会保障の制度と体制を知り，看護職が必要な社会保障制度のしくみを理解させる。
・社会保険制度	社会保険制度制度の概要とその内容，今後の動向や課題について学ぶ。	医療保険、介護保険、年金保険、雇用保険、労働災害補償保険についてのしくみを理解させる。
・公的扶助	公的扶助制度について理解する。	生活保護制度は，生存権を保障するものであることを指導する。
・社会福祉の法制度	社会福祉を支える法制度について学習し，理解する。	社会福祉の制度やそれを担う体制を知る。

使用教科書・教材・実技実習材料など
系統看護学講座　健康支援と社会保障制度（4）　看護関係法令　（医学書院） 系統看護学講座　健康支援と社会保障制度（3）社会保障・社会福祉　（医学書院）

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み提出物（ノート・レポート）小テスト　ペーパーテスト	授業・演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
法規の概念と社会保障制度について学び，関心をもつことができる。 自らが地域や社会に関心を持ち，社会資源活用について関心を深めようとする実践的な態度を身につけている。	医療・看護に関係する法規や社会保障制度に専門的知識を活用して論理的に考え，判断することができる。問題解決のための方法を的確に表現することができる。	医療・看護に関係する主な法規と社会資源の活用について，問題解決のための方法や技能を身につけている。	医療・看護に関係する主な法規と社会保障制度について看護の場面と関連づけて知識を深め、その意義や活用方法について理解している。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	老年健康生活支援論Ⅲ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標
・老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し，看護の役割を考える。 ・高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。 ・加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し，それに応じた看護や予防方法について学習する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
【老年保健】 保健・医療・福祉の場における課題 ①老年保健，福祉の動向と対策 ②ソーシャルサポートシステム ③社会資源，活用方法	・老年者の自立支援システムの構築に向けた法律，施策の変遷やその目標を理解する。 ・老年者のニーズに最適な制度活用を支援できるよう，保健医療福祉サービスの構成とサービスの特徴を理解する。	・様々な制度を活用し，多様な職種と協働する際に看護職に期待される役割について考察しながら，理解ができるように指導する。 ・身近にある地域のサービスや制度などについて調べさせ，主体的に理解できるように指導する。
【泌尿器疾患の看護】 腎泌尿器疾患，症状，検査，治療 腎不全 糸球体腎炎 尿路感染症【腎盂腎炎，膀胱炎】 尿路結石症 尿路の腫瘍【腎がん，膀胱がん】， 前立腺肥大症	・腎・泌尿器疾患の健康障害の特徴と援助方法を理解できる。 ・治療や処置を受ける患者の看護を理解できる。	・腎・泌尿器疾患の看護について急性期，慢性期の個別性や状態に応じた治療や処置の援助，合併症予防や身体可動性障害のある人への援助などについて理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
系統看護学講座　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　成人看護学８　腎・泌尿器疾患患者の看護　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験　小テスト	授業・グループ 校内演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
老年期にある人の総合的理解，看護，保健，医療，福祉活動，人権の尊重，疾病，障害，また高齢社会の問題について関心を持ち，その改善に向けて意欲的に取り組むことができる。	老年期にある人の問題や高齢社会の諸問題について解決するため，老年期の特徴や健康障害についての知識を基礎として，論理的に考え，適切な判断をすることができる。 様々な健康状態にある人のための適切な援助方法や対策を考え表現することができる。	老年期にある人の総合理解と健康の保持増進に対する援助に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	老年期にある人の健康を障害する因子について理解し，健康の保持増進に必要な知識を見につけ，老年看護の意義や役割を理解している。高齢社会の医療・保健・福祉対策の動向や現状を理解している。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ			1年	2年	3年	専1	専2	
	女性のライフコース支援論Ⅲ	1(30)					○	全員必修科目

科目の目標

A　母性疾患患者の看護
1　ハイリスク，異常妊娠について理解する。　2　異常分娩について理解する。
3　異常産褥について理解する。　4　新生児の生理と異常を理解する。
B　婦人科疾患患者の看護
1　思春期に起こりやすい異常について理解する。
2　更年期・老年期における異常について理解する。
3　女性のライフステージ各期における異常の予防と対処方法について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
A 母性疾患患者の看護 ①妊娠の異常と看護　(ハイリスク妊娠，妊娠期の感染症，妊娠疾患，多胎妊娠，妊娠持続時間の異常，子宮外妊娠) ②分娩の異常と看護（微弱陣痛，骨盤位，前期破水，胎児仮死，分娩時出血，分娩遷延，産科手術（腹式帝王切開術・吸引・鉗子分娩） ③新生児の異常と看護（新生児仮死，分娩外傷等の主な疾患と看護） ④産褥の異常と看護（子宮復古不全，産褥熱，尿路感染症，乳腺炎，産褥期の精神障害）	①ハイリスク，異常妊娠について理解する。 ②異常分娩について理解する。 ③異常産褥について理解する。 ④新生児の生理と異常を理解する。	医師講師が授業を担当する。 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常について，正常な経過と対比しながら取り扱う。
B 女性生殖器疾患患者の看護 ①月経異常，機能性子宮出血，月経困難症，子宮発育異常・性行為感染症， ②子宮筋腫，子宮癌，子宮内膜症，卵巣癌，絨毛癌，更年期障害など ③子宮下垂および子宮脱，老人性膣炎など ④不妊症と不妊治療	①思春期に起こりやすい異常について理解する。 ②更年期・老年期における異常について理解する。 ③各期における異常の予防と対処方法について理解する。	医師講師が授業を担当する。女性生殖器に発生する疾患の，診断検査・治療・予後について取り扱う。

使用教科書・教材・実技実習材料など

系統看護学講座　母性看護学［2］母性看護学各論　(医学書院)
系統看護学講座　成人看護学［9］女性生殖器疾患　(医学書院)

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み，ペーパーテスト	授業・グループ

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護について関心を持ち，対象者の援助について意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の健康状態を把握し，適切な看護介入をするために必要な思考を深めることができる。またその成果を的確に表現できる。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護について必要な技術を身に付けている。	ハイリスク・異常のある周産期の母体・児および女性生殖器疾患患者の看護に関する知識を身に付け，理解している。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	精神健康生活支援論Ⅱ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
精神保健活動の意義を理解した上で，対象のとらえ方を理解する。それぞれのライフサイクルにおける精神保健活動，看護援助の特徴を理解する。また，精神看護の基本的技術を学ぶ。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1．精神の健康とは 精神保健，精神の健康とは， 2．心の機能と発達とは（防衛機制） 3．精神力動的な考え方（フロイト） 精神の機能と障害 （知能，知覚，思考，記憶，認知，感情，意識，意欲とその障害）	精神保健の視点，予防的概念を知る。また精神力動的な考え方を知る。精神の機能と主な精神障害について理解できる。	精神保健や精神の機能とその障害について理解を促す。理論を用いた精神の構造機能について理解を促す。
4．危機（クライシス） 5．リエゾン精神看護	危機的状況やリエゾン精神看護について理解できる。	危機の概念や介入，予防，ストレスへの対処や適応について理解を促す。
6．病気と心理社会的反応 ストレスとレジリエンス 7．生きる力と強さ	病気を受け入れるまでの心理状況やそれぞれの状況における心理状況を理解できる。また対象者のストレングスを知り，リカバリーを促すような介入が理解できる。	それぞれの状況での危機状況について知り，介入方法について考えさせる。自分自身のメンタルヘルスについても振り返る機会を設ける。
8．身体疾患を持つ人の心の健康 9．患者を支える家族の心の健康 10．看護職員の精神の健康 11．メンタルウエルネス	心の健康状態と不健康状態についてそれぞれの立場で理解できる。	心の健康状態，不健康状態を演習などで，今までの経験などを思い出させたり，想像を促しながら説明し，理解を促す。
12．地域精神保健活動 訪問看護，リハビリテーション，デイケア，包括的地域支援	地域での精神保健活動を知り，精神看護の役割・機能が理解できる。	地域での視点に注意させながら，看護師の役割について理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
精神看護学Ⅰ　NOUVELLE HIROKAWA 精神看護学Ⅱ　NOUVELLE HIROKAWA DVD，ビデオ教材

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物 試験	授業・グループ　演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
発達課題と精神保健や地域での保健活動を理解し，基本技術について関心を持ち意欲的に取り組み，臨地実習にむけての実践的な態度を身につけている。	精神に障がいを持つ対象を理解し適切な援助を解決するために，専門的知識を活用して論理的に考え，判断をし創意工夫することができ，その過程を正確に表現できる。	看護師と患者，他の医療スタッフとの関係について，コミュニケーションを中心とした基本的な技術を身に付けている。	発達課題と精神保健について理解を基に知識，技術をを身に付けている。看護過程展開において，社会資源の活用に関連づけ理解できる。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	精神健康生活支援論Ⅲ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科　目　の　目　標

精神障害についての基本的な知識を学び，精神障害者の看護について理解する。

1．精神障害の発症に影響する要因，その症状と診断，治療について理解する。

2．精神看護に必要な判断と援助技術について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1．精神疾患の症状と診断，治療 （1）精神障害の診断と分類 （2）統合失調症 （3）気分障害 （4）強迫性障害 （5）摂食障害 （6）PTSD，解離性障害 （7）パーソナリティ障害 （8）依存性障害（アルコール，薬物） （9）てんかん （10）行動制限（隔離，拘束等）	それぞれの疾患の症状，診断，治療について理解する。	実際の事例などの説明をしながら，それぞれの疾患の特徴や症状，診断，治療について理解を促す。
2．薬物療法・精神療法に対する看護	薬物療法について知り，看護の方法を学ぶ。	薬物療法の必要性や重要性また患者への影響などに注意するように説明する。
3．精神看護の実践 精神症状に対する看護	精神症状に対する看護の理解を深める。	疾患・症状に対して具体的な関わりや援助方法について理解を促す。

使用教科書・教材・実技実習材料など

精神看護学Ⅰ　精神看護の基礎　医学書院
精神看護学Ⅰ・Ⅱ　NOUVELLE HIROKAWA

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物　試験	授業・グループ 校内演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
精神看護の目的,意義,看護の機能と役割について関心をもち，意欲的に取り組むとともに,臨地実習にむけての実践的な態度を身につけている。	精神看護実践に関わる問題点を解決するために，専門的知識を活用して論理的に考え，判断をし創意工夫することができ,その過程を正確に表現できる。	看護師と患者，他の医療スタッフとの関係について，コミュニケーションを中心とした基本的な技術を身に付けている。	精神看護学の目的，対象，看護の機能と役割についての知識を身に付けている。 看護過程展開において，疾患・症状，社会資源の活用等に関連づけ理解できる。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	精神健康生活支援論Ⅳ	1(15)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
看護の場における精神保健やチームワーク，コミュニケーション，精神障害者の保健・福祉サービス，社会とメンタルヘルスについて学ぶとともに，精神健康生活支援論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，精神看護学実習等の学びの中から，課題や研究したいテーマを選択して追求し，知識・見解を深める。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1．看護者の精神保健 2．看護の場におけるチームワーク （1）チームワーク論 （2）看護師の役割とチームワーク	看護師のメンタルヘルスについて理解する。 グループ・ダイナミクスとは何かを知り，チームワーク機能を理解する。	看護師の精神保健上の危機について学ばせ，その対処法を考えさせる。 集団力動について理解させるとともに，医療チームでの看護師の役割を理解させる。
3．コミュニケーション コーチング コンコーダンススキル ストレングスモデル	看護師にとって必要なコミュニケーションスキルについて知り，実践に生かせるように理解する。	コミュニケーションスキルの方法を知るだけではなく，実際に活用できるようにグループワークを通し，理解を深める。
4．精神障害者の保健・福祉サービスについての実際 （1）精神障害者の社会参加支援の現状と課題 （2）社会資源と地域生活支援の実際と課題	精神障害者の保健・福祉について，概要を理解し，保健・福祉サービスの実際や課題について認識を深め，，支援のあり方について理解する。	精神保健福祉法や障害者自立支援法など関連法規を基に指導する。 社会資源と地域生活支援の実際と課題については，グループワークを通し，地域における精神保健活動のあり方について考えさせる。
5．精神保健と社会 保健医療に関する資源の活用と調整，社会資源の活用とケアマネジメント，災害時地域精神保健医療活動，社会復帰・社会参加の基本	精神医学的現象と社会的要因との関連について学び，精神保健と社会病理との関連性やその支援のあり方について理解する。	個々人を取り巻く社会環境と精神保健の関連性について理解させる。グループワークを通し，社会病理との関連性を深く追求させまとめさせる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
精神看護学Ⅰ　NOUVELLE HIROKAWA 精神看護学Ⅱ　NOUVELLE HIROKAWA 精神看護学1　精神看護の基礎　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート、課題、レポート） 試験	授業（講義） 授業（グループ）

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
精神保健の動向や社会情勢，看護の機能と役割について関心をもち，意欲的に取り組む実践的な態度を身につけている。	精神看護学に関わる問題点を解決するために，専門的知識を活用して論理的に考え，判断をし，自己の考えを言語化でき表現できる。	精神保健の動向や社会病理，看護の機能と役割について理解し，支援するための技能を身につけている。	精神看護学における，精神保健の目的，対象，看護の機能と役割についての知識を身に付け，社会資源の活用に関連づけ理解できる。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	成人看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標

1　さまざまな健康段階にある成人期患者の疾病・治療経過を踏まえながら，患者の全人的理解に努める。
2　既習の知識・技術の統合あるいは新たな学習により，必要な看護を実践し，評価することを学ぶ。
3　継続看護の必要性を理解し，保健医療チームのなかで看護の役割を理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
・急性期疾患患者の看護 ・慢性期疾患患者の看護 ・終末期患者の看護	患者の健康・機能障害を理解し，援助すると共に，生命維持・回復のための看護活動ができる。異常の予防・早期発見・機能回復のための援助，健康・機能障害に伴う日常生活上の制限に対して援助を行う。 ストレス・危機状況にある成人期の患者・家族に対し，問題解決の系統的アプローチや看護理論を適用して，患者の力を引き出す看護実践ができるようになる。	病院で実習を行う。 1年次と異なる診療科に入院する患者のケアが経験できるようにする。1 年次の知識・技術を活用し，対象への看護を実践し，評価することができるように実習を進める。 保健医療チームのなかでの看護の役割を理解した，継続的な看護実践ができるように指導する。 問題解決の系統的アプローチや看護理論を適用した看護実践ができるように指導する。

評価の情報源	教育形態
出席，実習への取り組み，レポート，記録物 実習評価表（自己・病棟）	臨地実習・グループ演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
成人期の対象への看護について意欲的に取り組み，実践的な態度を身につけている。	ストレス・危機状況にある成人期の患者の力を引き出すための看護介入を行うために，思考を深め，判断ができ，その成果を的確に表現できる。	成人期の発達課題を捉え，健康に破綻をきたしている対象に必要な看護技術（危機回避，コーピング強化，意思決定など）を適切に用いることができる。	成人期の対象を全人的に理解し，さらには継続看護を視野に入れ，保健医療チームのなかでの看護の役割を理解する。看護を計画，実施，評価するために必要な知識を持っている。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	老年 看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1○	専2○	全員必修科目

科　目　の　目　標

1　老年期の特徴と健康障害との関連性について理解する。
2　対象の健康状態により生じる問題を把握し，個別性に応じた看護を計画、実施し評価できる。
3　人生の終末期における老人の生命と人格を尊重する態度を養う。
4　老人医療における保健福祉活動と看護の役割について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1　健康レベルに応じた看護実践 （健康な生活の保持増進時，社会復帰期，慢性期，疾病の予防と早期発見，終末期，検査・治療に伴う看護） 2　機能障害時の看護実践 （呼吸・循環，栄養代謝，防衛機能，内部環境調節機能，感覚機能，運動機能，言語機能，性・生殖機能） 3　周手術期の看護 （手術前，手術当日，手術後、救命救急時，急性期，回復への援助，術後合併症，終末期，検査・治療に伴う看護）	・老年期の患者の身体的，心理的，社会的特徴としての予備能力の低下を考慮に入れた援助ができる。 ・老年期の患者の治療処置援助と看護の実際を学ぶ。 ・老年期の患者に頻度高く見られる主要症状を理解し，看護援助ができる。 ・生活リズムをつけ，日常生活動作の維持拡大ができるよう援助する。 ・在宅看護へ向けて背景を考慮した導入計画と家族を含めた退院への援助を学ぶ。	・病院で実習を行う。 ・患者の同意を得て，病棟スタッフの指導のもとで，看護を行，看護過程を展開する。 ・既習の知識を活用しながら，対象への看護を実践し評価することができるように実習を進める。

評価の情報源	教育形態
出席状況　実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表（自己・病棟）	臨地実習・グループ演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
老年期・高齢社会における加齢，生活，保健に関心を持ち，その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，高齢化現象，及び，精神的社会的発達から老年期にある患者を看護する実践的な態度を身につけている。	老年期の患者の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身につけ，的確に表現することができる。	老年期・高齢社会にある患者の看護に関する基本的な技術を身につけ，実際の仕事を合理的に計画し，適切に処理することができる。	ライフサイクルの視点から，高齢化や加齢現象，および精神的社会的状況から老年期における看護援助の基本的知識を身につけ，看護の意義や役割を理解している。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	小児看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1○	専2○	全員必修科目

科　目　の　目　標

1 小児の成長・発達，健康障害，家族の状況を理解する。
2 小児を1人の個として尊重し，成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。
3 対象の健康状態により生じる問題を，成長・発達を踏まえて把握し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価できる。
4 対象を取り巻く医療，保健，福祉の連携の中で，看護の役割について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
小児の入院環境 入院の受け入れ 主な症状と状態に応じた対象の看護	・診察の介助ができる。 ・主な症状と各状態に応じた看護が理解できる。	病棟オリエンテーションの実施。
入院生活の援助 診察・検査の協力 小児病棟の管理 人間関係技術 外来における小児と家族の看護 予防接種，健康診査	・患児の入院生活を理解する。 ・病棟の特徴を理解する。 ・コミュニケーション技術を学ぶ。 ・継続的な健康管理について学ぶ。	成長・発達とその評価について学ばせる。 感染対策を講じる。
主な疾患と看護 感染症 呼吸器疾患 消化器疾患 腎・泌尿器疾患 看護過程の展開 急性期，慢性期の状況にある患児	・疾患に罹患した患児と家族を理解し受持患児の看護を学び，看護過程が展開できる。 ・グループの受持患児の看護を学ぶ。	カンファレンスにおいて看護実践についての指導・助言を得る。

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（レポート） 記録類 実習評価表（自己・病棟）	校外実習（臨地実習）

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
小児とその家族の健康障害，小児医療，人権の尊重，日常生活と人間関係のあり方に関心をもちその改善・向上を目ざして意欲的に取り組み，実践的な態度を身につけている。	小児とその家族の健康に関わる問題点の解決を目ざして思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して論理的に考え，適切に判断し創意工夫する能力を身につけ，適切に表現する。	小児とその家族の理解と小児とその家族の健康についての援助に関する基礎的・基本的で安全な技術を身につけている。	小児とその家族の健康問題を身体的機能と心理・社会的側面から理解し，その援助を科学的根拠に基づいて考察し，基礎的知識を身につけている。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	母性 看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1○	専2○	全員必修科目

科目の目標

1　妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性を理解し，基本的な援助，保健指導ができる。
2　妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深め，援助の必要性を把握し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価できる。
3　母性を取り巻く地域の医療，保健，福祉の諸機関との関係について理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
（1）妊娠期における看護	妊娠期の看護が理解できる。	病院で実習を行う。 産婦の同意を得て，病棟スタッフの指導の基で，正常分娩の看護を行う。また，産褥期の看護過程を展開する。 既習の知識を活用しながら，対象への看護を実践し評価することができるように実習を進める。 実習病院と連携しながら，新生児室および母性外来での実習を経験する。
（2）分娩期における看護	正常分娩への看護介入について理解できる。	
（3）産褥期における看護	褥婦の個別性に応じた看護を計画，実施，評価できる。	
（4）新生児期における看護	新生児の生理を理解し，新生児の看護について実習できる。	

評価の情報源	教育形態
出席，実習への取り組み，レポート，記録物 実習評価表（自己・病棟）	臨地実習・グループ演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
妊娠期～新生児の看護について関心を持ち，対象への看護について意欲的に取り組み，実践的な態度を身に付けている。	妊娠期～新生児の母体・児への看護介入をするために必要な思考や判断ができる。 またその技術を病棟スタッフの指導の基で，的確に実施できる。	母性看護について必要な技術（観察，モニタリング，分娩の介助，乳房管理，新生児の保育技術など）を身に付けている。	妊娠・分娩・産褥期における看護の必要性を理解し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価するために必要な知識をもっている。

専門分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
Ⅱ	精神看護学実習	2(90)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科　目　の　目　標

1．精神に障害を持つ対象の発達課題，健康状態の特徴に応じた看護の必要性が認識できる。
2．対象に行われている治療活動の実際やその目的と効果を知り，自己の相互作用を体験しながら，治療的対人関係の調節を理解する。
3．看護の必要性に基づいた看護過程の展開ができる。
4．精神医療における看護と他職種との連携の重要性を理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1．実習事前レポート	配属病棟ごとに提示された実習レポートし基礎知識を習得する。	実習展開に必要な内容を履修して実習に臨めるようにする。必須の基礎知識について事前に補足する。
2．実習オリエンテーション	実習の到達目標,方法を知る。	実習の到達目標，方法について説明する。
3．実習展開 （1）病棟実習 作業療法,レクリエーション,ＳＳＴや日々の患者との関わりを持つ	精神に障害を持つ対象の発達課題や状態，治療の特殊性を理解し，看護の役割を学ぶ。 言葉や行動の持つ意味や背景を考えながら，患者の日常生活に参加することができる。	実習が円滑に進むよう，実習指導者や病院スタッフを連絡調整しながら実施する。 対象との対人関係の持ち方について気づき，考えることができるように支援する。
（2）受け持ち患者の看護展開 ①受け持ち患者を持ち，看護過程を展開する ②カンファレンス	受け持ち患者の全体像の把握と看護展開ができる。 プロセスレコードにより，患者との関わりを振り返ることができる。 自己洞察を深め，患者に対する自己活用ができる。	対象が抱えている問題について理解でき，適切な援助が導き出せるよう，思考過程の整理を指導する。 関わりを振り返ることにより，他者および自己の理解を促す。
（3）臨床講義 認定看護師，薬剤師，作業療法士，臨床心理士，精神保健福祉士	現場での現状について講義を受け，それぞれの職種の役割について学ぶ。	チームにおけるの看護師の役割について理解させる。
（4）精神障害者生活訓練施設，地域活動支援センター見学	それぞれの施設を見学し，対象者の生活，社会とのつながりについて知る。	対象者の地域，社会との関わりや取り巻く状況について理解させる。

評価の情報源	教育形態
出席　実習への取り組み　事前レポート 記録内容・提出状況 実習評価（自己・病棟）	臨地実習　　カンファレンス　　グループ演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
精神に障害をもつ対象者の看護に関心をもち，意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身につける。	精神に障害をもつ対象に関わる問題点を専門的知識を活用し考え,判断できる。また，その過程について表現できる。	看護師と患者の関係についてコミュニケーションを中心とした基本的技術を用い，対人関係が図れる。	実習を通し，看護の役割，対人関係の持ち方，対象者の取り巻く現状と社会との関わりなどが理解できる。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	在宅看護論総論	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標

地域で生活しながら療養する人々，あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し，在宅における看護の基礎知識・技術を習得する。ニードに基づく生活行動の支援方法及び社会資源の活用方法を理解し，対象に必要な在宅看護の展開方法を理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1）在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護の目指すもの ②在宅看護における看護師の役割・機能 ③在宅看護における看護師の倫理 ④必要とされる社会背景	地域で生活している人々に視点をおき，高齢社会の到来，社会情勢の変化，人々の健康に対する考え方の変化など増大する在宅ケアニーズの背景や在宅看護の必要性・目的について学ぶ。	既習の社会情勢の変化と在宅ケアニーズを結びつけて理解させる。
2）在宅看護の対象者・法令・制度 ①対象者の特徴 ②家族 ③在宅看護の仕組み ④世界の訪問看護の動向	在宅看護の主要な方法としての訪問看護について，保険制度による対象や継続看護の本質，さらに保健所など各施設の訪問看護の特徴について学ぶ。	退院後の生活を支える社会資源について理解させる。また，各施設による訪問看護の目的・活動内容の違いを知り，地域の健康を守る方策を理解させる。
3）在宅看護の展開 ①在宅看護看護過程のポイント ②在宅看護過程の展開方法 ③他職種との連携 ④在宅看護における安全性の確保 ⑤対象者（家族も含む）権利保障	事例から，アセスメントに必要な項目や利用できる社会資源，利用者・家族に提供するケアを具体的に学ぶ。	事例を基にグループ演習を行い，看護過程の展開の方法を理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など

系統看護学講座　在宅看護論　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況，授業への取り組み 提出物（レポート） 試験	授業：(講義・グループ) 演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
疾病や障害を持ちながら在宅で生活する人やその家族の背景および社会資源の活用方法に関心を持ち，日常生活を支援できるよう，また，その改善と向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付けている。	在宅で生活する人々や家族に対して，基礎・基本的な知識や技術を活用し，適切に判断し創意工夫し援助することができる。また，在宅看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割について日常生活と関連づけて考察しその成果を的確に表現する。	在宅看護に関する基礎・基本的な知識を身に付け，家族への説明・指導を行うなどの看護者としての態度，関わる人々との関係維持などが適切に実践できる。	在宅で生活している人々やその家族の全体的な生活背景の理解と社会資源の活用方法，また，科学的根拠に基づいた援助を理解し，基礎・基本的な看護を身に付け，看護の意義や役割を理解している。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	在宅看護論方法論Ⅰ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標
在宅看護の対象のレベルを理解し，適切な観察力，安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠に裏付けられた看護技術を修得する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1） 在宅看護技術 ①在宅で求められる看護技術の応用 ②在宅医療技術	在宅で療養している人々のＡＤＬやＩＡＤＬを支えるための援助技術を対象に応じて選択・実施できる。	事例を提示しながら，どの援助方法を選択するのかを演習をしながら，判断できるよう促す。
2）皮膚疾患 の適切な観察と援助技術 ①皮膚疾患の要因（身体的・社会的・心理的）と特徴 ②援助・指導（衣生活・栄養・食事指導・スキンケア）	皮膚疾患の特徴を知り，その観察ポイントを学び，指導内容や援助方法を知る。	実際の事例などを説明しながら，それぞれの疾患の特徴や症状，診断，治療について理解させる。
3）咀嚼・嚥下障害時の適切な観察と 援助技術 ①歯・口腔疾患の特殊性と治療 ②問題把握と看護援助の概要	咀嚼・嚥下障害時の適切な観察ポイントを知り，その援助技術を知る。	実際の事例などを説明しながら，それぞれの疾患の特徴や症状，診断，治療について理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
・系統看護学講座　在宅看護論　医学書院 ・系統看護学講座　成人看護学（１２）皮膚　医学書院 ・系統看護学講座　成人看護学（１５）歯・口腔　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験	授業：(講義・グループ) 演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
在宅で生活する上での看護・医療・福祉・疾病・障害・家族・日常生活と人間関係の在り方に関心を持ち，日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	在宅で生活していく上での対象に関わる問題点を解決するため，基礎・基本的な知識と技術を活用して，適切に判断し創意工夫をすることができ，その成果を的確に表現する。。	在宅で生活していく上での対象に関わる基礎・基本的な技術，科学的根拠に基づき安全安楽を考慮した援助が実践できる。	在宅で生活する人々の現状を知り，科学的根拠に基づいた援助を理解し，基礎・基本的な知識・技術を身に付けるとともに在宅看護の意義や役割を理解している。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	在宅看護論方法論Ⅱ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科　目　の　目　標

在宅看護の対象のレベルを理解し，適切な観察力，安全安楽な援助が行えるよう科学的根拠に裏付けられた看護技術を修得する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1）感覚器（視覚）の変化における適切な観察と援助技術 ①眼科領域の疾患の経過，観察，援助技術 ②コミュニケーション障害による自己概念の変化（社会的活動の制約，心理・社会問題）	眼科疾患の特徴を知り，その観察ポイントを学び，指導内容や援助方法を知る。	実際の事例などを説明しながら，それぞれの疾患の特徴や症状，診断，治療について理解させる。
2）感覚器（聴覚）の変化における適切な観察と援助技術 ①耳鼻咽喉科領域の疾患の経過，観察，援助技術 ②コミュニケーション障害による自己概念の変化（社会的活動の制約，心理・社会問題）	耳鼻咽喉科疾患の特徴を知り，その観察ポイントを学び，指導内容や援助方法を知る。	実際の事例などを説明しながら，それぞれの疾患の特徴や症状，診断，治療について理解させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など

・系統看護学講座　成人看護学（１３）　眼　　医学書院
・系統看護学講座　成人看護学（１４）　耳鼻咽喉　　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況，授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験	授業：個人・グループ 演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
感覚器に障害のある人々が在宅で生活する上で看護・医療・福祉・疾病・障害・家族・日常生活と人間関係の在り方に関心を持ち，日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。	在宅で生活していく上での対象に関わる感覚器の障害による問題点を解決するため，基礎・基本的な知識と技術を活用して，適切に判断し創意工夫をすることができ，その成果を的確に表現する。	在宅で生活していく上で感覚器に障害のある対象に関わる基礎・基本的な技術，科学的根拠に基づき安全安楽を考慮した援助が実践できる。	在宅で生活する感覚器に障害のある人々の現状を知り，科学的根拠に基づいた援助を理解し，基礎・基本的な知識・技術を身に付けるとともに在宅看護の意義や役割を理解している。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	在宅看護論方法論Ⅲ	1(15)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
在宅看護論総論と方法論Ⅰ・Ⅱで学習した知識・技術を統合し，演習・ロールプレイングを通して必要な看護展開が理解できる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1）在宅看護における看護過程の展開 ①在宅ケアの基礎技術（医療処置技術・リハビリテーション・健康教育） ②事例を提示し，看護過程を紙上で展開する。	在宅で療養している人々を支える医療処置技術やリハビリテーション技術を理解する。	事例を提示しながら，どの援助方法を選択するのかを演習をしながら，判断できるよう促す。
2）基本的な生活行動援助の演習	基本的な生活行動援助について演習を行い，技術を身につける。	小グループに分かれ，課題に応じた実技演習を行う。

使用教科書・教材・実技実習材料など
・系統看護学講座　在宅看護論　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験	授業：(講義・グループ) 演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
在宅で生活する上での看護・医療・福祉・疾病・障害・家族・日常生活と人間関係の在り方に関心を持ち，日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むことができる。	在宅で生活していく上での対象に関わる問題点を解決するため，基礎・基本的な知識と技術を活用して，適切に判断し看護計画を立案することができる。 また，その成果を的確に表現する。	在宅で生活していく上での対象に関わる基礎・基本的な技術，科学的根拠に基づき安全安楽を考慮した援助が実践できる。	在宅で生活する人々の現状を知り，科学的根拠に基づいた援助を理解し，基礎・基本的な知識・技術を身に付けるとともに看護過程の展開ができる。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	看護の統合と実践Ⅰ	1(15)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目のねらい

・看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。医療安全のための基礎的知識が理解できる。
・チーム医療及び他職種との協働の中で，看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
看護管理 1 看護とマネジメント	看護におけるマネジメントの概要が理解できる。	実習病院の看護部長が担当する。 「医療安全管理」においては，統合ゼミの医療安全の演習のための基礎的知識について取り扱う。
2 ケアのマネジメント ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利 医療安全管理	看護職のケアのマネジメントについてその過程と機能が理解できる。患者の権利を守るための概念について理解できる。医療安全のための基礎的知識が理解できる。	
3 看護サービスのマネジメント 情報のマネジメント キャリア開発	組織をマネジメントすることの概要が理解できる。また秘守義務，プライバシーの保護，情報開示の必要性，キャリア開発の必要性について理解できる。	
4 看護をとりまく諸制度 看護職の職業倫理	看護業務と職業倫理について理解できる。	
チーム医療論 チーム医療及び他職種との協働 メンバーシップ リーダーシップ	チーム医療及び他職種との協働の中で，看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できる。	チームアプローチについて具体的な例を挙げ，その必要性と課題について取り扱う。

使用教科書・教材・実技実習材料など

系統看護学講座　看護管理　　医学書院

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート）　試験	授業(講義・グループ) 演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護におけるマネジメント，医療安全，チーム医療について関心をもち，自ら看護の果たすべき役割を追求しようとする実践的な態度を身に付けている。	看護におけるマネジメント，医療安全，チーム医療について，論理的に考え，適切に判断をすることができる。また，その成果として自己の人間観・看護観を的確に表現できる。	看護におけるマネジメント，医療安全，チーム医療について，適切な技術を身に付け，その展開を工夫する能力を持つ。	看護をマネジメントできる基礎的知識，医療安全のための基礎的知識が理解できている。チーム医療及び他職種との協働の中で，看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップが理解できている。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	看護の統合と実践Ⅱ	1(15)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科　目　の　目　標

・国際社会において広い視野に基づき，看護師として諸外国との協力を考えることができる。
・災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。
・家族について基礎的知識を持ち，家族エンパワーメントを支援する方法を理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
（1）国際看護 ①国際交流と国際協力 （政府ベース・民間ベース・国際赤十字など） ②国際機関への協力 （WHO・ICNなど）	国際協力の実際について様々な機関とその活動を学び，国際的視野が持てる。 また，看護師として諸外国との協力を考えることができる。	保健医療・看護における国際協力の実態について理解を促し，グループワークを取り入れながら，国際的な視野を持つことの重要性に気付かせる。
（2）災害看護 ①災害・災害看護に関する知識 ②看護の役割と看護活動 ③災害時に必要な技術(トリアージなど)および精神的援助	災害発生直後から中長期的に，広い範囲で活動する状況に応じた医療従事者の役割について理解し，そのために必要な基礎的知識を身につける。	人工呼吸・心マッサージ，各期の災害時の看護などを既習内容と結びつける。 また，トリアージではグループ演習を取り入れ，法的責任について配慮する。可能であれば，実習機関で行われる避難訓練に参加し，災害看護の実際に触れる。

使用教科書・教材・実技実習材料など

看護の統合と実践（3）　災害看護学・国際看護学　　医学書院
自作プリント

評価の情報源	教育形態
出席状況　授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト　ペーパーテスト	授業：個人・グループ 演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
国際看護・災害看護に関心を持ち，国際的視野や家族を見る視点から看護の役割を考えていく意欲を持っている。	国際看護・災害看護について，様々な状況で求められる判断の根拠を示すことができる。 それぞれの状況でどのように支援するかを表現できる。	国際看護・災害看護について求められる基礎的技術を身につけている。	災害直後からの支援に当たるための基礎的知識が理解できている。 国際的な視野と家族をアセスメントする視点について理解できている。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	看護研究	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科目の目標
看護問題を科学的に解決できるよう研究的態度について学ぶ。 臨地実習で根拠に基づき実践した看護過程を振り返り看護研究としてまとめあげる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1　科学的根拠に基づく看護過程のまとめ 2　研究計画の立案 3　文献検索 4　研究論文の構成 5　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの演習 6　看護研究発表 7　看護研究冊子作成	・臨地実習で自分が行った看護の看護過程について振り返り，科学的看護についての研究のまとめ方の基本を学ぶ。 ・自分の看護研究をまとめ，プレゼンテーションソフトを使用し発表したり，クラスメートの発表を聞くことにより，研究に必要な態度や知識を身につける。	・研究をまとめるにあたって守るべきルールや倫理的配慮，情報の取り扱いや，文献，インターネットの使用時の留意事項等について指導する。 ・自分の行った看護について科学的な思考ができるように客観的な見方ができるように指導する。 ・研究を発表するための様々なツールの活用方法や発表時の態度などを身に付けさせる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
系統看護学講座　別巻　看護研究　第一版（医学書院） NANDA-Ⅰ看護診断　定義と分類（医学書院）

評価の情報源	教育形態
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 提出物（論文）	授業・個人 演習

評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
疑問や問題を粘り強く探求していこうとする態度を養うと共に，専門職業人として研究に実践的に取り組もうとする態度を身につける。	既存の知識や理論を活用するプロセスを学んだ上に，より適切な看護実践につなげるための研究の重要性を理解し，科学的思考や判断能力を身につけ研究成果をわかりやすく発表することができる。	研究において自己の考えを論理的に述べることができると共に，周囲の者とも積極的に意見交換を行う技能を身につけることができる。	看護における様々な研究の既存の知識や理論について知識を持った上に，専門職業人としての研究の意義や重要性を知り，そのプロセスを理解することができる。

統合分野	科目名	単位(h)	履　修　学　年					科目の種類
	統合ゼミ	1(30)	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科　目　の　目　標
臨床実践に近い状況下で総合的な判断・対応を体験することにより，卒後の看護業務遂行のイメージができるようにする。

学　習　内　容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
医療事故シミュレーション ・各自が，場面設定に応じた看護師の役割のロールプレイングを体験する。 ・誤薬のリフレクションを行う。 ・各グループで振り返り，ディスカッションを行う。 家族看護 ・家族とは何か，家族を看護するということ，家族のライフコースに見る生活と健康，家族看護の基礎理論について理解する。	・医療事故シミュレーション体験・リフレクションを通して，誤薬を起こしやすい自己の傾向を理解する。自己の傾向をふまえた誤薬の対処方法を考え，意識して行動することの必要性に気づく。 ・家族看護の意義と看護の対象である家族を理解し，家族看護の方法を学ぶ。	・リフレクションを実施させる。「事故を起こした」「ヒヤリハットした」と思った場面を振り返らせ，自己の傾向を探る。 ・危機状態にある時の自分の思考・判断・行動の傾向に気づかせ，対処方法を学ばせる。 ・子供の虐待と家族，在宅で看取る高齢者の看護等，例をあげながら考えさせる。
状況設定下での看護技術の実践 ・患者の状態を判断し，状況に応じた看護技術の習得 ・事例を提示し，その状況に応じた看護技術を実施，患者の対応を学ぶ。 ・状況下での看護技術についてグループワークを行う	・患者の状態を判断し，状態に応じた看護技術の提供ができる。 ・患者への適切な説明，反応に対する対応ができる。 ・患者の安全・安楽，自立度に応じた看護技術の実践ができ，自分の傾向を振り返る。	・患者に応じた適切な判断で援助ができるように学ばせる。 ・評価を行い，個人の傾向を振り返ることができるように促し，実践に活かせるようにする。
総合演習 看護師に必要な知識の統合	・看護師に必要な知識を身につけ，看護実践能力を習得する。	・看護師に必要な知識を統合し判断でき，実践に活かせる能力を習得させる。

使用教科書・教材・実技実習材料など
・系統看護学講座　統合　看護管理　医学書院　　・自作プリント

評　価　の　情　報　源	教　育　形　態
出席状況　　授業への取り組み　　提出物 試験　　小テスト	授業（講義）　授業（グループ）　演習 校内実習

評　価　規　準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
臨床に近い状況での実践を行うことで，卒後に向けて対象者の援助に意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけようとしている。	臨床に近い状況での実践を伴うために，対象者や周りの状況を的確に判断し，必要な対応ができる思考もっており，自分の考えを表現する。	臨床に近い状況で，対象者や周りの状況に応じた適切な看護技術の提供ができる。	臨床に近い状況での適切な判断ができる知識を持っている。また，看護師に必要な統合的知識を理解している。

統合分野	科目名	単位（h）	履修学年					科目の種類
	在宅看護論実習	2（90）	1年	2年	3年	専1	専2 ○	全員必修科目

科　目　の　目　標

1．地域内で療養する人々とその家族の問題を生活の問題として理解し，その人々が在宅で健康の維持，増進が図られるよう援助できる能力を養う。
2．地域内で生活する人々の健康の保持，増進，疾病予防のための援助ができる。
3．地域内で生活する人々の健康上の問題，関連する諸問題の解決にかかわる職種の役割，機能を理解し，看護の役割を理解する。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1）実習事前レポート	実習場所ごとに提示された項目をレポートし基礎知識を習得する。	必要な基礎知識について確認する。
2）実習オリエンテーション	実習の到達目標，方法を知る。	実習の到達目標，方法について説明する。
3）実習展開 （1）介護老人保健施設・特別養護老人ホーム	施設で生活する老人の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解する。 老人の生活を支える職種の役割・機能を理解し，看護の調整的役割について学ぶ。	実習が円滑に進むよう，実習指導者やスタッフと連絡調整しながら実施する。 乳幼児から老人まで，各発達段階に応じて求められる看護・介護の特徴について理解できるように支援する。
（2）保健所・保健センター包括ケアセンター	保健所の機能の概要を知り，市町村保健センターとの連携を理解する。 地域住民の健康上の問題を知り，保健活動を通して看護の役割について理解する。	地域住民を対象とする看護の役割について理解し，予防的なかかわりで健康の維持・増進ができること，また，医療・保健・福祉の連携の必要性について理解できるよう指導する。
（3）保育所	乳幼児期の身体的・心理的・社会的な成長発達の状況を捉えることができる。 地域における保育所の役割・現状について知る。	
（4）訪問看護ステーション	同行訪問し，在宅で療養する人々の実態を知り，訪問看護がどのように在宅療養を支えているか，また，社会資源の活用や他職種との連携の方法について学ぶ。	在宅で療養する対象者が社会資源をどう活用し，訪問看護に同行し療養者をどう支えているかを理解させる。

評価の情報源	教育形態
出席，実習への取り組み 事前レポート 記録内容・提出状況 実習評価	臨地実習　　カンファレンス グループ演習

評　価　規　準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地域(施設・在宅)で療養する対象者の看護に関心をもち，意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身につける。	地域(施設・在宅)で療養する対象に関わる問題点を専門的知識を活用し考え，判断できる。自分なりの表現で家族などの介護者に説明できる。	在宅で療養する対象者が必要とする看護の役割と求められる基礎知識や技術を身につけている。	実習を通し，在宅看護の役割，病院などとの継続看護の必要性，社会資源の活用や他職種との連携が理解できる。

統合分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	看護統合実践実習	2(90)	1年	2年	3年	専1	専2○	全員必修科目

科目の目標

人間の理解と専門的知識を統合し，複数の対象のニーズに対応した看護が医療チームの中で展開できる。

学習内容	学習内容ごとの目標	指導上の留意点等
1 複数患者の援助の優先順位と時間配分 （1）受け持ち患者の病状変化による治療方針の変更，援助計画の実施と修正 （2）援助実施の良否，優先度の判断 （3）適切な時間での実施 （4）予定されている検査処置の時間の確認と援助実施の調整 （5）看護の実践と評価・効果の判定 （6）適時・適切な人への報告調整	・複数患者の看護を優先順位と時間管理を考慮して実践できる。	・病院で実習を行う。 ・病棟スタッフの指導のもとで，複数患者を受け持ち看護を展開する。 ・既習の知識を活用しながら，対象への看護を実践し評価することができるように実習を進める。 ・リーダー業務・看護管理業務は見学実習とする。 ・一勤務帯を通した実習を行う。
2 看護管理の実際 （1）コーディネーターの役割と業務の実際 ①医師への報告・連絡調整 ②チーム及びスタッフへの連絡調整 ③病院内外の部門との連絡調整 （2）チームメンバー間の協力・行動調整 ①病院組織における看護管理 ②病棟管理者の役割と業務	・看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 ・看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解することができる。	
3 既習の知識，技術，態度の統合 （1）今までの実習の中で経験したケアの深化 （2）未経験のケアへの準備と実施 ①チェックリストにより未経験の看護技術を明確化 ②明確になった自己課題についての実施計画立案 （3）日々の看護実践の自己評価 （4）流動的環境の中での実践	・既習の知識，技術，態度を統合し，看護実践力を高める。 ・これまでの学習を振り返り，将来の看護師としての自己の課題を明確にする。	

評価の情報源	教育形態
出席状況　実習への取り組み レポート，記録物，実習評価表（自己・病棟）	臨地実習・グループ演習

評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護管理・病棟管理に関心を持ち，その改善・向上を目指して意欲的に取り組み，既習の知識を統合し患者を看護する実践的な態度を身につけている。	複数患者の受け持ち時や一人の患者に必要な複数の看護の優先順位を考えたり，流動的環境の中で判断し看護を実践できる。その成果や看護の要点について的確に表現することができる。	既習の基本的な技術を統合し，実際の仕事を合理的に計画し，適切に処理する技能をみに付けている。	複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性や看護管理の実際等について理解でき，既習の知識と統合し，自己の課題を明確にすることができる。